特集「ディペンダブルなシステムの構築・運用・管理技術」の編集にあたって

西村 浩二[1,a)]

本特集号は「インターネットと運用技術（IOT）研究会」が中心となって企画，編集を行ったものである．

コンピュータの高性能化やネットワークの高速化は，ネットワークサービスの多様化や高機能化を実現した．さらに近年の仮想化技術の進展は，大規模かつダイナミックな計算資源を提供する商用クラウドサービスへと発展し，その効率性や柔軟性から注目を集めている．その一方で，重要情報の取扱いや情報漏洩対策，システム障害時の対応や移行のしやすさなど，セキュリティ面や運用面での信頼性，すなわちディペンダビリティの課題も指摘されている．これに対し，組織内にクラウドを構築するプライベートクラウドも登場しているが，コスト面を含めた総合的な視点からの従来のシステム構築，運用手法に対する優位性は必ずしも明確とはなっていない．そこで本特集号では，“システム” を広義にとらえ，ディペンダブルなシステムの構築・運用・管理に関する研究論文を一括して掲載し，本研究分野の発展と推進，ネットワークサービスの高度化と展開に寄与することを目的とした．

本特集号には 19 編の論文が投稿され，22 名からなる特集号編集委員会により査読を行った．本特集号では，本研究会の前身である「分散システム/インターネット運用技術（DSM）研究会」の特集号に対する考え方「システムの構築・運用・管理における様々な創意工夫を研究分野としてとらえ，その研究活動の成果をまとめること」を受け継ぎ，これまでと同様に指導的査読を徹底し，また論文誌ジャーナル編集委員会作成の「べからず集」を本格的に活用するなど，できるだけ丁寧に査読を行うことを心がけた．その結果，最終的に 7 編の論文を採録するに至った．

本特集号の募集期間中，2011 年 3 月 11 日には東日本大震災が発生した．この未曾有の震災により亡くなられた方々，1 年が経過した今もなお甚大な被害に苦しむ方々には，心より哀悼の意と復興への祈りを捧げたい．本特集号のテーマは，今回のような非常時において “システム” はどうあるべきか，どうあって欲しいかを問うものであった．SNS の活用や計画停電への対応など，多くの研究課題が明らかとなったが，今回の特集号では時間的な制約もあり，残念ながらその真に迫ることは叶わなかった．引き続き本研究会の重要な研究テーマの 1 つに位置付け，今回の震災から得られた貴重な知見をもとに，本研究分野を推進，発展させることで，これから本格化する復興の一助となることを目標としたい．

最後に，本特集号を企画する機会を与えていただいた学会各位に感謝する．また本特集号に関心を寄せ，優れた論文を投稿していただいた著者の方々に感謝する．ご多忙の中，手間も時間もかかる指導的査読にご協力いただいた査読者各位，論文査読の過程で貴重な助言をいただいた編集委員会委員各位，シンポジウムの準備で多忙な中，編集作業をサポートをしていただいた副編集委員長，ならびに不慣れな編集作業をスケジュール通りに進めるためご尽力いただいた学会事務局に感謝する．

「ディペンダブルなシステムの構築・運用・管理技術」特集号編集委員会

- 編集長
  西村 浩二（広島大学）
- 副編集長
  宮下 健輔（京都女子大学）
- 編集委員（五十音順）
  石島　悌（大阪府産業技術研究所），一井信吾（東京大学），上原哲太郎（総務省），河合栄治（情報通信研究機構），計　宇生（国立情報学研究所），齊藤明紀（鳥取環境大学），佐藤　聡（筑波大学），敷田幹文（北陸先端科学技術大学院大学），地引昌弘（情報通信研究機構），萩原洋一（東京農工大学），長谷川輝之（株式会社 KDDI 研究所），林　治尚（兵庫県立大学），久長穣（山口大学），前田香織（広島市立大学），桝田秀夫（京都工芸繊維大学），武藏泰雄（熊本大学），山井成良（岡山大学），山之上卓（鹿児島大学），吉田和幸（大分大学），渡辺健次（佐賀大学）

1 広島大学情報メディア教育研究センター
Information Media Center, Hiroshima University, Higashi-hiroshima, Hiroshima 739–8511, Japan
a) kouji@hiroshima-u.ac.jp

© 2012 Information Processing Society of Japan